

素晴らしい定演でした！！チケット1000円でも惜しくないという声が多数！！

吹奏楽局の定期演奏会が8月4・5日に芸術ホールで開催されました。1日目・2日目も720の座席がほぼ満席でした。局員達は1週間前に行われた道南地区吹奏楽コンクールにゴールド金賞で2年連続全道大会を決め、その勢いで持てる力を十二分に発揮し、満員のお客さんを魅了するとともに素晴らしいコンサートを創り出しました。保護者や市民の方々からは、「チケット代1000円では安いくらい、どの曲も、パフォーマンスも本当に良かった。感動しました。」という声を多数いただきました。私が特に感動した曲は、『ラッキードラゴン』でした。演奏ももちろん素晴らしかったですし、高2の村本さんの語りも臨場感があって、とても良かったです。ラッキードラゴンとは1954年3月1日にアメリカの水爆実験で被爆した第5福竜丸をさし、福竜丸のことを描いた絵本：アメリカの詩人アーサー・ビナードと画家ベン・シャーンが描いた『ここが家だ』という絵本に刺戟された福島弘和さんが作曲した曲です。気になる言葉がその絵本に書かれています。それは「この出来事を人々は忘れない、しかし忘れるのをじっと待っている人たちもいる」という言葉です。近年、第二次大戦の忌まわしい過去を「忘れるのをじっと待っている人たちの存在」が気になってきています。若い人たちを徐々に巻き込みつつあります。時代の空気が明らかに変わってきています。8月15日の北海道新聞に、遺愛の戦争時代の事が書かれていました。じわじわ迫り来る圧力に、本来の遺愛の教育が変容していったことが書かれていました。同じような歩みをしないようにするためにはどうしたらよいか？まず、過去に何があったかを知り、その過去の事実を忘れず、再び繰り返さないようにするにはどうするか考えることだと思います。聖書に「平和を実現する人々は幸いである。」(マタイによる福音書5章9節)という言葉がありますが、遺愛にとって8月は1年のなかで特に平和について考え、過去を忘れずに、心に平和のとりでを改めて築き直す月です。

2018年8月17日



「ラッキードラゴン」を演奏



高3 企画



フィナーレの合唱